

芳賀の史跡めぐり

-16-

小二郎薬師と青木平左衛門の筆子塚

小二郎薬師と筆子塚は嶺町寺間地区の見晴らしの良い霊園の中にあります。現在、この場所にはコンクリートの納骨堂になっていますが、かつては木造の薬師堂がありました。このお堂は享保12年（一七二七）の寺社帳にも記載されており、歴史のある建物だったようです。そして、この薬師堂において宝暦11年（一七六一）4月に23歳の若さで亡くなった青木小二郎を供養しました。

芳賀村史によると、このお堂には白色砂岩製で、室町時代初期以前に作られたとされる、古い石仏が祀られていました。が、いつの日かこの石仏を小二郎薬師と呼ぶようになったようです。

木造の古いお堂は昭和47年（一九七二）8月に

取り壊されましたが、お堂にあった小二郎薬師像などの3体の石仏は、納骨堂の南西側にある小さな祠（ほこら）に納められています。これらの3体の石仏は、中央が小二郎薬師像で、左側は“しようづかのお婆さん”と呼ばれる石仏です。右側の石仏の由来はわかりませんがかなり古い物のようです。

納骨堂の東側には四基の石碑がありますが、西側の石碑が青木平左衛門の筆子塚で、その2つ右が青木小二郎の墓です（写真）。青木平左衛門は寺間で名主や組頭を行っていた家柄の方で、幕末から明治初期までこの地の寺子屋で子供たちの教育を行っていました。この筆子塚は青木平左衛門が明治24年（一八九一）に84

歳で亡くなった時、38名の筆子（寺子屋の生徒）たちが恩師の遺徳を偲んで作りました。筆子塚は大変立派で、筆子たちの恩師への思いが込められているようです。

当時、筆子たちが学んだ寺子屋は現在の嶺町公民館のある場所に存在し、天保初年ごろから明治5年（一八七二）まで開かれ、嶺地区の初等教育を担っていました。ここで行われていた初等教育は、明治7年（一八七四）に開校した赤城小学校（嶺小学校の前身）に引き継がれることになりました。

生涯学習奨励員
井上 金治

8月の主な行事予定

8月25日（火）芳賀公園除草剤散布（芳賀公園）



位置図



筆子塚と青木小二郎の墓

春夏秋冬

ウイルスのパンデミック（世界的大流行）は大変怖い、新型コロナウイルス感染症のスピードが速い罹患率で済んでしまいが数%の人が肺炎になり窒息状態で亡くなってしまふ。重症で治療しても後遺症で大変なようです。公衆衛生学者や医学者と経済学者の考え方の違いがあり、どちらが正しいのか判りませんが共通点は間違いなく第二波、第三波が起ると予測しています。第一波での経験から医療体制の充実、社会的問題、経済的な問題、国益、外交など対応策は国と自治体が準備、個人は自己責任で生活習慣や生活様式を変えて真剣に向き合うことが必要となると思います。

高花台一丁目
生涯学習奨励員

田村 泰彦